

コラム

打出合戦

後醍醐天皇による建武の新政(元弘3年~建武3年(1333~1336))は、天皇親政の公家政治の復興を目指して始められましたが、期待を裏切られた武士たちは武家政治の復活を望み、武士の名門である足利尊氏の下に次第に集まってきました。建武2年(1335)11月、ついに尊氏は鎌倉で反旗を翻し、翌年1月11日に京都へ入りました。これに対して新田義貞・楠木正成・北畠顕家は力を合わせて、1月27日には尊氏を京都付近で破り、逃れた尊氏は2月3日に兵庫に着きました。そして、尊氏は兵庫で再び京都へ進撃する態勢を整えたのです。

こうして、新田・楠木・北畠らの軍勢は尊氏追討に向かい、尊氏勢も出陣して、建武3年(1336)2月10日に楠木勢と尊氏勢との間で打出合戦となりました。この合戦では、正成が尊氏の弟、足利直義に打撃を与え、直義は兵庫へ逃げ延びました。2月11日の豊島河原の合戦で尊氏は新田義貞に敗れ、九州へ逃げました。しかし、5月には勢力を盛り返して兵庫へ迫り、迎え撃つ新田・楠木軍と戦って正成を敗死させ、敗走する義貞を追って京都へ追い入りました。やがて尊氏は光明天皇を立て、後醍醐天皇は12月に吉野に逃れ、ここに南北朝時代が始まったのです。

コラム

打出浜合戦

足利尊氏は、暦応元年(1338)8月に北朝から征夷大将軍に任ぜられ、室町幕府を開きました。しかし、その後、足利氏の内紛や諸大名の抗争が顕著になり、尊氏は側近の高師直・師泰兄弟を重用したので、弟直義との間には次第に不和となり、諸大名も両派に分かれて争うようになりました。

直義は一時南朝に降り、正平6年(観応2年(1351))1月に京都に攻め入りました。尊氏は丹波・播磨に敗走し、再び京都を目指して兵庫に至りました。こうして、2月17日、尊氏・師直・師泰軍と、これを迎える直義軍との間に打出浜合戦が起こったのです。結局は尊氏側の惨敗に終わりました。2月20日、尊氏と直義の間に和議が成立し、2月26日に尊氏は兵庫をたって上洛しました。

平野を横切ってきた道が大阪湾岸に出たところに「打出」の地名がついたとされています。やがて江戸時代には、山陽道は西国街道の名で呼ばれ、西宮から打出に入って2本に分岐して、打出から斜め北西にのび、茶屋之町付近で現在の国道2号のルートにほぼ重なる本街道と、打出からほぼ国道43号と重なるルートで西進する浜街道です。打出で2本に分岐した街道は、西方、生田神社(神戸市中央区)の南手で合流して中国地方へと続いていました。当時、大名行列等は本街道を通り、民衆は浜



西国橋 古代令制(下で、都と大宰府を結ぶ山陽道が芦屋市域に通っていました。都から南西へ西国街道が通っていました。)



阿保親王廟石碑

江門時代に刊行された「福原鬘鏡」(延宝8年(1680))、「撰陽群談」(元禄14年(1703))、「撰津志」(享保20年(1735))、「撰津名所図会」(寛政8年(1796))等の多くの地誌には、西国街道沿いの芦屋の風光が描かれており、現在も打出小槌町付近に本街道の面影が部分的に残っています。宮川に架かる西国橋の橋名や阪神打出駅北方の鳴尾御影線沿いに建てられた阿保親王廟石碑等の石造物からも西国街道の存在を知ることが出来ます。



芦屋市には長い歴史があり、さまざまな文化財が残されてきました。現地に行けば実物や解説板等により、その存在を確認できる市内の文化財を取り上げています。

※生涯学習課発行の『芦屋の文化財ハンドブック』を広報国際交流課が再編集して紹介しています。

古墳時代前期(4世紀前半)に築造された古墳です。現状では直径約36m、高さ約3mの円墳を方形の濠が囲みますが、これは江戸時代に阿保親王の子孫である長州藩(山口県)毛利氏が大改修を行った後の姿であり、本来は前方後円墳であった可能性が高いと考えられています。宝永年間(1704~1710)には副葬品の銅鏡が少なくとも7面出土し、現在その内の3面が阿保山親王寺(打出町)の寺宝としており、芦屋市指定文化財に指定されています。



阿保親王墓

打出橋

阪神国道(現在の国道2号)に伴う橋で、宮川に架かっています。大正15年(1926)3月に竣工しました。橋の長さは約73m、構造は鉄筋コンクリート造。橋の四隅には珍しい照明が付けられ、欄干は鋳物で「S」の字を横にしたような装飾が付けられています。

橋

たが、4世紀前半の築造年代とはまったく合わず、阿保親王とは関係がないことがわかります。実際の被葬者は不明ですが、4世紀前半に阪神地域を治めた豪族であったとされています。



阿保親王墓古墳

西国街道

同じく阪神国道に伴う市内の業平橋や武庫大橋(尼崎市・西宮市)をはじめとする市外の橋を見ると、それぞれに欄干の装飾や橋のデザインが異なり、当時の技術者の技とこだわりを感じることが出来ます。

Advertisement for 'ELEGAN MAYA HOME VISITATION' (エレガノマヤ ホーム見学会開催) by Kobelco. Includes details about the event on 1/22 and 2/25, contact number 0120-01-4165, and company information for S-Care Life Co., Ltd.

Advertisement for '人生100年時代' (Life 100 Year Era) by the Asahi Silver Human Resources Center. Includes a list of services, meeting information (出張説明会 and 定期説明会), and contact details.